

演劇への入口講座 第7回 小鼓で楽しむ能 ～能の魅力



大倉源次郎氏

「演劇への入口講座」は、帝国劇場、日生劇場、東京宝塚劇場、国立劇場など、近隣に劇場が多く所在する日比谷ならではの、地域連携講座です。脚本家や演出家、舞台劇術家、研究者など、演劇に関わる講師を招き、見どころや、観劇がより楽しめる予備知識についてお話いただきます。ただ観劇に行くだけでは得られない話を聞くことで、演劇への知見と理解を深めます。今回、第7回では能楽を取り上げます。舞の動きに謡の音楽と、笛・小鼓・大鼓・太鼓による囃子の器楽演奏が加わって物語が進行していく日本固有の芸能である、能。囃子方はただの伴奏ではなく、主役を演じるシテや、ナレーションを謡う地謡と対峙し、舞台を構築していく大切な存在です。能楽小鼓方の第一人者、海外25ヶ国で公演経験のある大倉源次郎氏を講師としてお迎えし、能楽や歌舞伎のライターとして活躍されている田村民子氏と共に、小鼓の形状の仕組みとその歴史、小鼓の視点で見ると面白い演目など、小鼓に焦点を当てたお話をいただきます。

講師

■ 大倉 源次郎（能楽小鼓方大倉流十六世宗家）

能楽小鼓方の第一人者。1957年大倉流十五世宗家、大倉長十郎の次男として生まれ、新作能、復曲能、海外公演に多数参加。2015年には観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞した。誰もが日本文化である能と気軽に会えるよう、「能楽堂を出た能」のプロデュースなども行う。近年では奈良県桜井市多武峰談山神社にて談山能の制作を担当。

■ 田村 民子（「伝統芸能の道具ラボ」主宰）

1969年、広島市生まれ。能楽や歌舞伎などの裏方、職人を主な領域とするライター。2009年より伝統芸能の道具の調査、作れなくなっている道具の復元を行う、「伝統芸能の道具ラボ」を開始。東京新聞掲載「能楽お道具箱」、『月刊観世』連載「能楽と職人たち」を執筆。

開催概要

- 日時：2016年10月8日（土）14:00～16:00（13:30 開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円（千代田区民500円 ※住所が確認できるものをお持ちください。）
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて
①講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。